

① そいつが小屋の入り口に、ゆっくり顔を出した時、百姓どもはぎよつとした。

なぜぎよつとした？ よくきくねえ、何をしだすか知れないじゃないか。かかり合っは大変だから、どいつもみんな、一生懸命、自分の稲をこいでいた。

ところがその時オツベルは、並んだ器械の後ろの方で、ポケットに手を入れながら、ちらつとすると、象を見た。それからすばやく下を向き、なんでもないというふうで、今までどおり行ったり来たりしていたもんだ。

すると今度は白象が、片足床に上げたのだ。百姓どもはぎよつとした。それでも仕事がいそがしいし、かかり合っはひどいから、そっちを見ずに、やっぱり稲をこいでいた。

オツベルは、奥のうすく暗い所で、両手をポケットから出して、も一度ちらつと、象を見た。それからいかに退屈そうに、わざと大きなあくびをして、両手を頭の後ろに組んで、行ったり来たりやっていた。ところが象がいせいよく、前足二つつき出して、小屋に上がってこようとする。百姓どもはぎくつとし、オツベルも少しぎよつとして、大きな琥珀のパイプから、ふっとけむりをはき出した。それでもやっぱり知らないふうで、ゆっくりそこらを歩いていった。

そしたらとうとう、象がこのこのこ上がってきた。そして器械の前のとこを、のんきに歩き始めたのだ。

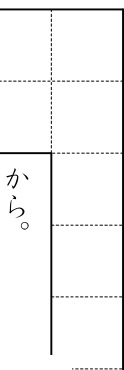
ところがなにせ、器械はひどく回っていて、もみは夕立かあられのように、パチパチ象に当たるのだ。象はいかにもう

るさいらしく、小さなその目だが、またよく見ると、確かっていた。

みやぎげんじ 宮沢賢治『セロ弾きのゴーシュ 宮沢賢治童話集』

① 「そいつ」とは何を指すか。二字で答えなさい。

② 「百姓どもはぎよつ」とありますが、なぜ「ぎよつ」その理由を文章中から十文字以内で答えなさい。



③ 「それでもやっぱりこいでいた」について答えなさい。

(1) だれの動作ですか。次から答えなさい。

( ) 象 百姓ども オツベル

(2) ③のようにして書いたのはなぜですか。最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

( ) ア 象がおそろしくて落ち着かなかったから。

( ) イ 百姓たちが仕事をさばらないように見張っていたから。

( ) ウ 象を手に入れようと考えていたが、無関心をよそおいたかったから。

(4) この『オツベルと象』は「ある牛飼いが話した物語という設定で書かれています。それが最もよくわかる部分に——線を引きなさい。

(5) ……⑦⑧の漢字の読みを書きなさい。

⑦ 一生懸命 ( ) ⑧ 稲 ( )

⑨ 退屈 ( ) ⑩ 琥珀 ( )



あらすじをおさえながら、文章を読む習慣をつけていきます。



そいつが小屋の入り口に、ゆっくり顔を出した時、百姓どもはぎよつとした。なぜぎよつとした？ よくきくねえ、何をしだすか知れないじゃないか。かかり合つては大変だから、どいつもみんな、一生懸命、自分の稲をこいでいた。

ところがその時オツベルは、並んだ器械の後ろの方で、ポケットに手を入れながら、ちらつとすると、象を見た。それからすばやく下を向き、なんでもないというふうで、今までどおり行ったり来たりしていたもんだ。

すると今度は白象が、片足床に上げたのだ。百姓どもはぎよつとした。それでも仕事がいそがしいし、かかり合つてはひどいから、そつちを見ずに、やっぱり稲をこいでいた。

オツベルは、奥のうすく暗い所で、両手をポケットから出して、も一度ちらつと、象を見た。それからいかに退屈そうに、わざと大きなあくびをして、両手を頭の後ろに組んで、行ったり来たりやっていた。ところが象がいせいよく、前足二つつき出して、小屋に上がつてこようとする。百姓どもはぎくつとし、オツベルも少しぎよつとして、大きな琥珀のパイプから、ふっとけむりをはき出した。それでもやっぱり知らないふうで、ゆっくりそこらを歩いていった。

そしたらとうとう、象がこのこのこ上がつてきた。そして器械の前のとこを、のんきに歩き始めたのだ。

ところがなせ、器械はひどく回っていて、もみは夕立かあられのように、パチパチ象に当たるのだ。象はいかにもう

るさいらしく、小さなその目を細めていたが、またよく見ると、確かに少し笑っていた。

みぎぞりけいじ  
宮沢賢治『ゼロ弾きのゴーシュ 宮沢賢治童話集』(偕成社)より

① 次の語句の意味を調べなさい。また、わからない語句があれば、ぬき出して調べなさい。

〔語句〕 〔意味〕

◇ かり合い

◇ 稲をこく (よみ) 稲からもみ

◇ いかにも

◇ いせいよく (用例) 元氣よく。

◇ いせいよく (用例) 元氣よく。

◇ 琥珀 ( )

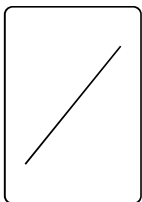
◇ なにせ (用例)

◇ なにせ (用例)

② この物語に登場する人や動物を書きなさい。

## 定着プリント

プリントの内容を定着させるプリントです。



1年

名前

年 組 番

るさいらしく、小さなその目を細めていたが、またよく見ると、確かに少し笑っていた。

みづのけいじ  
宮沢賢治『ゼロ弾きのゴーシュ 宮沢賢治童話集』(偕成社)より

① そいつが小屋の入り口に、ゆっくり顔を出した時、百姓どもはぎよっとした。なぜぎよっとした？ よくきくねえ、何をしだすか知れないじゃないか。かかり合っては大変だから、どいつもみんな、一生懸命、自分の稲をこいでいた。

② ところがその時オツベルは、並んだ器械の後ろの方で、ポケットに手を入れながら、ちらっとするどく、象を見た。それからすばやく下を向き、なんでもないというふうで、今までどおり行ったり来たりしていたもんだ。

③ すると今度は白象が、片足床に上げたのだ。百姓どもはぎよっとした。それでも仕事がいそがしいし、かかり合ってはひどいから、そっちを見ずに、やっぱり稲をこいでいた。

④ オツベルは、奥のうすく暗い所で、両手をポケットから出して、も一度ちらっと、象を見た。それからいかにも退屈そうに、わざと大きなあくびをして、両手を頭の後ろに組んで、行ったり来たりやっていた。ところが象がいせいよく、前足二つつき出して、小屋に上がってこようとする。百姓どもはぎくつとし、オツベルも少しぎよっとして、大きな琥珀のパイプから、ふっとけむりをはき出した。それでもやっぱり知らないふうで、ゆっくりそこらを歩いていった。

⑤ そしたらとうとう、象がこのこのこ上がってきた。そして器械の前のところを、のんきに歩き始めたのだ。

⑥ ところがなにせ、器械はひどく回っていて、もみは夕立かあられのように、パチパチ象に当たるのだ。象はいかにもう

① ①〜⑥の段落の内容をまとめました。ア〜クにあてはまることばを、文章中からぬき出して書き入れなさい。

① ・そいつ<sup>Ⅰ</sup>ア  
小屋の入り口に顔を出した。

・百姓ども

Ⅰ  
イ  
としたが、自分の稲をこいでいた。

② ・ウ  
なんでもないというふうで、行ったり来たりしていた。

③ ・象

Ⅲ  
エ  
。

・百姓ども

ぎよっとしたが、やっぱり稲をこいでいた。

④ ・象

前足二つつき出して、

Ⅳ  
オ  
。

・百姓ども

ぎくつとした。

・オツベル

少しぎよっとしたが、ゆっくりそこらを歩いていった。

⑤ ・象

Ⅴ  
カ  
上がってきて、

Ⅵ  
のんきに  
キ  
。

⑥ ・象

もみがパチパチ当たるので、小さなその目を細めていたが、確かに

Ⅶ  
ク  
。

そいつが小屋の入り口に、ゆっくり顔を出した時、百姓どもはぎよっとした。なぜぎよっとした？ よくきくねえ、何をしだすか知れないじゃないか。かかり合っては大変だから、どいつもみんな、一生懸命、自分の稲をこいていた。

A その時オツベルは、並んだ器械の後ろの方で、ポケットに手を入れながら、ちらっとするどく、象を見た。①それからすばやく下を向き、なんでもないというふうで、今までどおり行ったり来たりしていたもんだ。

すると今度は白象が、片足床に上げたのだ。百姓どもはぎよっとした。それでも仕事がいそがしいし、かかり合ってはひどいから、②そっちを見ずに、やっぱり稲をこいていた。

オツベルは、奥のうすく暗い所で、両手をポケットから出して、も一度ちらっと、象を見た。それからいかにも退屈そうに、わざと大きなあくびをして、両手を頭の後ろに組んで、行ったり来たりやっていた。A 象がいせいよく、前足二つつき出して、小屋に上がってこようとする。百姓どもはぎくつとし、オツベルも少しぎよっとして、大きな琥珀のパイプから、ふっとけむりをはき出した。それでもやっぱり知らないふうで、ゆっくりそこらを歩いていった。

そしたらとうとう、象がこのこ上がってきた。そして器械の前のとこを、のんきに歩き始めたのだ。

A なにせ、器械はひどく回っていて、もみは夕立かあられのように、パチパチ象に当たるのだ。象はいかにもう

るさいらしく、小さなその目を細めていたが、またよく見ると、確かに少し笑っていた。

みずがけじ  
宮沢賢治『ゼロ弾きのゴーシュ 宮沢賢治童話集』(偕成社)より

① Aには同じつなぎ言葉が入ります。次から選びなさい。

(だから) (ところが) (また) (とこ)

② | ①「それからすばやく、んだ」について答えなさい。

(1) | ①と同じように、オツベルして無関心をよそおっている文を二つ探し、| 線い。

(2) オツベルが象を無視していせかけているのはなぜですか書きなさい。

## 発展プリント

さらに発展的な内容のプリントです。

③ | ②「そっち」が指している内容をわかりやすく答えなさい。

のほう。

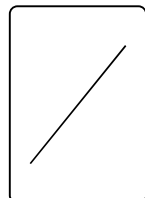
④ 本文の内容にあてはまるものには○、あてはまらないものには×をつけなさい。

① 白象がぶらっと小屋にやってきた。

② 百姓どもは象におどろいて逃げ出した。

③ 象は小屋で暴れ出した。

⑤ [ ] で囲まれた部分を読んで、象の表情を絵でかきなさい。



① 「軽便鉄道敷設の工事」へ214頁1行について答えなさい。

(1) 工事が始まったのは、良平がいくつのおときですか。

(2) 良平が毎日工事を見物に行ったのは、どんなことを見るのがおもしろかったからですか。

② 「そんな景色」へ214頁10行について答えなさい。

(1) 「そんな景色」を説明している部分の初めと終りの五字を書きなさい。

□ □ □ □ □

(2) 「そんな景色」を眺めながら、良平はどのように思いましたか。

「[ ] になりたい。」

土工と「いっしょに」[ ]に乗りた。

乗れなくても、せめて「[ ]」にさえてきたら。

③ 「ある夕方」へ214頁19行、良平は誰と村外れに行きましたか。

[ ] [ ] [ ] [ ]

④ 「土工たちの姿は見えなかった」へ215頁3行とありますが、このとき良平はどう思いましたか。次から選び、記号で答えなさい。

[ ] [ ]

ア みんなどこへ行ってしまったんだろう。  
イト ロックを動かすのなら今のうちだ。  
ウ 大人のかわりにロックを押してあげよう。

⑤ 「いちばん端にあるロックを押した」へ215頁4行について答えなさい。

(1) そのときの三人の様子を文章からきしなさい。

□ □ □ □ □

(2) ロックの車輪の音を聞いて、どう変化しましたか。

[ ] [ ]

⑥ 「いくら押ししても動かなく動き」について答えなさい。

(1) 良平は、どんなことを「も」ですか。

[ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ]

(2) 三人が飛び乗ったロックは、[ ] たか。

ロックは、最初「[ ]」、それから「[ ]」、勢いよく、[ ]に線路を下りだした。

(3) ロックに乗っているときの良平の気持ちや文章から三字で抜き出しなさい。

□ □ □ □ □

⑦ 良平が、ロックに「二度と乗ってみよう」と思ったことはないへ215頁35行のはなぜですか。次から選び、記号で答えなさい。

[ ] [ ]

ア 土工に怒鳴られたことがとてもおそろしかったから。  
イ 一度乗ったことで満足したから。  
ウ 土工がいつも見張っていることがわかったから。

### いプリ (教科書版)

教科書の本文を読んで  
文章を読む習慣をつけていきます。





◆ ( ) には漢字の読み、□には漢字、「」には漢字と送りがなを書きなさい。

(1) [ ] のことばを述べる。  
ことば

(2) □ が光を放つ。  
ほたる

(3) ブドウの房。 ( )

(4) 百年の伝統を [ ] 。  
ほこる

(5) 私の [ ] は読書だ。  
しゅみ

(6) [ ] 対策をする。  
しがいせん

(7) [ ] を買う。  
ぶんぼうぐ

(8) 地面に霜が降りていた。 ( )

(9) [ ] 地帯で道に迷う。  
さんかく

(10) [ ] の職業。  
あこがれ

(11) 乗客が飛行機に [ ] する。  
とうじょう

(12) ヨーロッパの絵画に憧けいする。 ( )

(13) 蛍光ペンでチエ [ ]

(14) 戦力を誇示する [ ]

(15) 浅間の岳。 ( )

(16) [ ] 弔意を表す。  
じうい

(17) 市民が戦禍に巻き込まれる。 ( )

(18) 美しい紫の花が咲いている。 ( )

(19) [ ] 上品な趣がある。  
しんぷん

(20) 出産の [ ] を祝う。  
けいじ

漢字 用例プリント  
教科書単元を指定し、その範囲  
の新出漢字をピックアップ。  
読み・書き・混合のランダム  
出力も可能